

ふるさと納税NFT

メタバースマスターズ

DAPCON

Newsletter

新建築データ

イラストデジタル文庫「Stroily (ストローリー)」

日本文化財VRミュージアム

鑑賞システム「かじこくキューブ®」
FROG AI-OCR

大網白里市デジタル博物館

デジタルアーカイブ向けカメラ「Rシステム」

デジタルアーカイブを活用した博物館での展示造形



アート・工芸作品のフラットフォーム「B-OWND (ビー・OWND)」

非公開標本デジタルデータケース「かんなの博物館」

2010年代前後からのデジタルアーカイブ本の出版活動

れきちず

デジタルアーカイブ 推進コンソーシアム Newsletter

No. 22

2024 デジタルアーカイブ産業賞

CONTENTS

当日のレポート

受賞内容紹介

2024 デジタルアーカイブ産業賞について



デジタルアーカイブ推進コンソーシアム
DAPCON

2024年12月11日(水)、「2024 デジタルアーカイブ産業賞授賞式・受賞者ショートプレゼンテーション」をオンラインで開催した。冒頭に、緒方靖弘事務局長が開会宣言を行った後、選考委員を代表して、白鳥 綱重内閣府知的財産戦略推進事務局参事官、吉見 俊哉 教授(デジタルアーカイブ学会会長)よりご挨拶をいただいた。デジタルアーカイブ推進コンソーシアムは、デジタルアーカイブ産業賞を2019年から開催し、今年で6回目を迎える。本年は、ビジネス賞5件、技術賞3件、貢献賞3件、奨励賞5件の計16件を選出した。発表会当日は、青柳 正規 会長より表彰状授与を行った後、受賞者の皆様に受賞内容についてご発表いただいた。



参加者集合写真

■ 式次第

1. 開会宣言：緒方 靖弘 事務局長(司会)
2. 選考委員ご挨拶 白鳥 綱重 氏(内閣府知的財産戦略推進事務局参事官)、吉見 俊哉 氏(デジタルアーカイブ学会会長)
3. 表彰状授与式 青柳 正規 会長
4. 受賞者による受賞内容のショートプレゼンテーション

ビジネス賞

- 株式会社あるやうむ／ふるさと納税NFT
- 株式会社新建築社／新建築データ

- 株式会社 Stroly / イラストデジタルマップ Stroly (ストーリー)
- 大日本印刷株式会社 / デジタルアーカイブ資料を活用した教育ビジネスの開拓～鑑賞システム「みどころキューブ®」の展開～
- 株式会社ハコスコ、太陽企画、VoxelKei、スタジオダックビル / メタバースマスターズ

技術賞

- OMデジタルソリューションズ株式会社 / デジタルアーカイブ向けカメラ「Rシステム」
- 株式会社ジーン、株式会社相互技研 / 日本文化財VRミュージアム
- 株式会社モルフォ AIソリューションズ / FROG AI-OCR

貢献賞

- 大網白里市 / 大網白里市デジタル博物館
- 株式会社丹青社 / アート・工芸作品のプラットフォーム「B-OWND (ビーオウンド)」
- 北海道大学総合博物館、北海道立北方民族博物館、むかわ町穂別博物館、札幌市博物館活動センター、札幌市円山動物園、群馬県立自然史博物館、北九州市立自然史・歴史博物館 / 非公開標本デジタルデータベース「みんなの博物館」

奨励賞

- 株式会社サンク・アール / デジタルアーカイブを活用した博物館での展示造形
- 公益財団法人渋沢栄一記念財団および開発メンバー / みんなで古写真【渋沢栄一伝記資料】
- 株式会社誠勝 / 産学連携教育を想定した史料デジタル化支援サービス
- 株式会社勉誠社 / 2010年代前後からのデジタルアーカイブ本の出版活動
- 株式会社MIERUNE / れきちず

受賞者の皆様より、受賞内容についての紹介をご寄稿いただいた。

ビジネス賞

株式会社あるやうむ / ふるさと納税NFT

株式会社あるやうむです。この度、「デジタルアーカイブ産業賞」を頂戴し心より感謝申し上げます。当社はNFT(非代替性トークン)技術を活用し、ふるさと納税の返礼品としてデジタルアートを提供する取り組みを行っています。

NFTはブロックチェーン技術を用いてデジタルデータの真正性や流通経路を証明できる技術です。これにより、寄付者は唯一無二のデジタルアートを所有できるだけでなく、NFTを通じて自治体と

の継続的なつながりを持つことが可能になります。例えば、NFTを保有することで、特定の温泉への早期入浴権を得たり、地域限定の特典を受け取れる仕組みを実装しています。

さらに、NFTは寄付者が自治体を忘れず、地域との関係を持続できる点でも優れています。従来のふるさと納税では、寄付先の自治体を意識し続けることは難しいですが、NFTならデジタルウォ

① ふるさと納税NFTのつづき→

レット内で常に目にすることができ、関係人口の創出につながります。現在、当社のNFTソリューションは北海道から九州まで20以上の自治体に採用され、寄付額の増加や地域への訪問促進にも寄与しています。今後、さらなる地域への貢献を目指し、NFTを含めたWeb3領域と公共を滑らかに接続することで、地域活性化の新たな可能性を広げてまいります。



ビジネス賞 株式会社新建築社／新建築データ

株式会社新建築社が運営する「新建築データ」は、1925年創刊の『新建築』をはじめ、『住宅特集』『a+u』に掲載された建築プロジェクトを検索・閲覧できるプラットフォームです。現在は23000件を超えるプロジェクトを収録しております。すでに公開済みのプロジェクトに加え、新たな事例の追加・拡充も進めており、より多角的なデータベースの構築を目指しています。

雑誌『新建築』は創刊以来、建築写真のほか、建築家から提供された図面やテキスト、スペックシートといった同じフォーマットで情報を蓄積してきました。「新建築データ」では、この蓄積を基盤として、建築プロジェクトを横断的に検索・比較できる仕組みを整えています。開発は2019年より行ってきましたが、2020年4月、コロナ禍をきっかけとして、まだ開発途中だったものをベータ版として一時的に無償公開し、大学・設計事務所にアクセスできない学生や研究者、実務者を幅広く支援しました。

現在は有償のサービスとして運営され、多くの教育機関や建築実務の現場で導入が進み、建築教育や実務の基盤として活用されています。出版市場が縮小する中でも、本サービスが新たな原動

力となり、雑誌文化と新建築そのものの存続に貢献できるよう、今後も進化を続けてまいります。

私たちは、多様な建築情報を必要とする方々と協力し、次の100年へ向けて、皆様とともに新たな建築情報を記録・共有・発展させていけるよう歩み続けたいと考えています。引き続き建築に携わる全ての方の創造や学びを支え、課題解決に寄与するサービスとなるよう努力を重ねてまいります。



ビジネス賞 株式会社Stroly／イラストデジタルマップStroly（ストローリー）

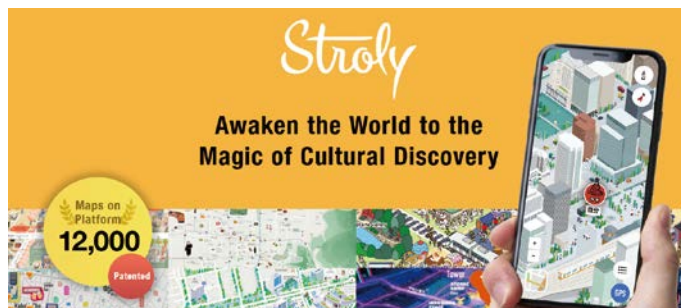
イラストデジタルマップ「Stroly」は、古地図や絵図、イラストマップ等を位置情報と連動させて表示することで、絵に描かれた街並みをスマートフォン上で体感できるサービスです。独自の技術を駆使し、従来位置情報の付与が困難であった古地図や絵図に位置情報を重ね合わせています。ユーザーは、古地図でまるでタイムスリップしたかのような感覚で、過去の街並みを散策することができます。未来予想図で出歩けば、未来を体感することもできます。

Strolyは、前身の「ちずぶらり」から進化を続け、現在では世界12,000種類ものイラストデジタルマップが登録されています。

サービス開始当初から、図書館や資料館と連携し、オープンデータ化された資料をデジタルマップ化し、街歩きや地域活性化に活用するなど積極的にデジタルアーカイブの活用を進めてきました。現在は自治体や観光地のガイドマップのみならず、都市のエリアマネジメントにも活用されており、マップ上にリアルタイムでバスの運行状況を表示したり、イベントやスタンプラリーを開催するなど、単なるDXにとどまらないデジタルならではの利便性や楽しみ方を利用者へ提供しています。

また、Strolyで得られたデータを分析し、地域活性化に繋がる施策を立案・実行しています。例えば、人々の移動経路などのデータから、人気スポットや混雑状況を把握し、観光客誘致やイベント企画だけでなく、地域住民向けのサービス向上や都市計画にも役立てることが出来ます。街の魅力を分かりやすく伝えるとともに、市民生活の利便性向上にも貢献していきます。

今回の受賞を励みに、これからも、世界中の人々にワクワクするエリアの魅力を伝え、デジタルで広く公開してまいります。



ビジネス賞 大日本印刷株式会社／デジタルアーカイブ資料を活用した教育ビジネスの開拓～鑑賞システム「みどころキューブ®」の展開～

この度は「みどころキューブ®」を活用した「博学連携」の取組みに対し、名誉ある賞を賜り心より感謝申し上げます。

2022年4月の博物館法の改正（2023年4月施行）を受け、博物館の事業として、博物館資料のデジタルアーカイブの作成と公

開が新たに位置付けられ、多様な收藏品や資料のデジタルアーカイブ化とその利活用が進むなかで、大日本印刷株式会社 (DNP) は、博物館と学校がそれぞれの教育的機能を活かして連携・協力し合い、子どもたちの未来を切り開く資質・能力を育てる「博学連携」の促進に取り組んできました。

近年、GIGAスクール構想によって学習者が主体的に学ぶ「アクティブラーニング」が注目され、「探究的な学習」を促すICT教材の需要が高まっており、学習指導要領においても学校教育における美術館・博物館等の積極的な活用が推奨されています。デジタルアーカイブされた博物館等の收藏品情報を可視化し、発信できるインターフェイスが特長の「みどころキューブ®」は、展示向けのデジタル鑑賞システムとして活用されていましたが、Webブラウザで閲覧できることもあり、地域資料を活用した探究学習における

ICT教材として教育分野での導入事例も増えています。

DNPは、今後も地域の文化財や資料のデジタルアーカイブを活用して、MLA (博物館／図書館／文書館等) 施設と様々な教育機関が連携する架け橋となり、地域に愛着と誇りをもつ心豊かな子どもたちの育成を支援してまいります。



ビジネス賞

株式会社ハコスコ、太陽企画株式会社、VoxelKei、スタジオダックビル合同会社／メタバースマスターズ

わたしたちメタバースマスターズは、国内トップクラスのデジタルアーカイブ制作チームとしてこれまで7年間活動してまいりました。(https://hacosco.com/meta/)

わたしたちがこれまで行ってきたデジタルアーカイブは、文化財や歴史的建造物をデジタルで保存することにより、未来永劫に広く共有していくための有効な手段です。特に近年では、自然災害や経年劣化といったリスクから、文化財などを守るだけでなく、次世代に伝えていくという役割がますます注目されています。

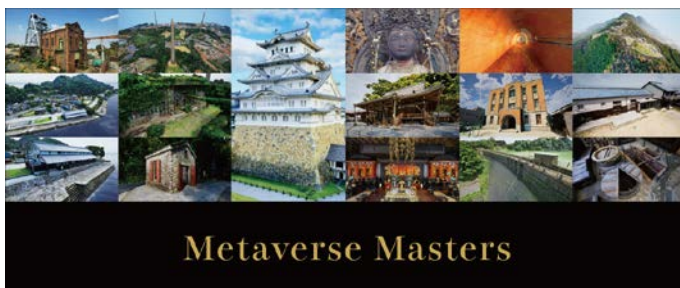
その強みは、フォトグラメトリ技術を活用した高精度な3Dモデル制作や、メタバース空間の構築をワンストップで提供できる点です。VRChat、Clusterといったメタバースプラットフォームのみならず立体ディスプレイなどのデジタルサイネージにも対応し、単なるデジタル再現にとどまらず、観る人がまるでその場にいるような体験を提供しています。

文化財や観光地を高精細なCGモデルとしてオンライン上に再現

することで、物理的な制約を超えて、国内外の多くの方々にもその魅力を発信することが可能となります。

さらに、これを現実世界の体験と組み合わせることで、全く新しい価値の提供ができるのではないかと考えております。

デジタルアーカイブの必要性は益々増えてまいります。今後もその必要性を多くの人々に知らしめていく活動を続けてまいります。



技術賞

OMデジタルソリューションズ株式会社／デジタルアーカイブ向けカメラ「Rシステム」

この度は、2024 デジタルアーカイブ産業賞「技術賞」という荣誉ある賞をいただき大変光栄に存じます。

受賞製品であるデジタルアーカイブ向けカメラ「Rシステム」は、当社製品の長を活かし、簡単かつ効率的にデジタルアーカイブを行いたいお客さまに向けた商品として企画・開発いたしました。当社にとって文化・教育領域向けの製品は初の試みでしたが、企画時の意図を高くご評価いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

「Rシステム」はカメラや機材に不慣れな方でも簡単に操作が可能なカメラシステムです。立体的な被写体に対して広い範囲でピントが合う深度合成機能や、8000万画素の高精細画像を撮影できるハイレゾリューション機能といった便利な機能がダイヤル操作のみでご利用いただけます。また、ワークフローを説明したユーザーズガイドを同梱しており、文化財や美術品などのデジタルアーカイブ化を強力にサポートいたします。

今後、博物館法の改正などに伴い、デジタルアーカイブの需要

はますます高まっていくと考えております。当社は、これからも調査や研究にお役立ていただけるカメラシステムやサービスを開発し、文化・教育領域における課題解決に貢献してまいります。デジタルアーカイブにおける撮影でお困りのことがございましたら、ご相談を承りますのでお気軽にお問い合わせください。

(https://biz.om-digitalsolutions.com/)



技術賞

株式会社ジーン、株式会社相互技研／日本文化財VRミュージアム

この度、2024 デジタルアーカイブ産業賞「技術賞」を頂戴し、誠にありがとうございます。『日本文化財VRミュージアム』は文化財をVRで鑑賞・観察するデジタルミュージアムです。2024年12月時点で山梨県立考古博物館ルーム、唐古・鍵ルームなど7つの

“ルーム”があり、各ルームにて各種文化財を観察できます。

Steamにて無料配信しており、描画性能の高いPCとVRゴーグルにて楽しめます。また東北歴史博物館では機器とともに常設しており、東北歴史博物館ルームを体験できます。

『日本文化財VRミュージアム』には以下の3つの大きな特徴があります。

- フォトグラメトリにより文化財を本物そのままに超高精細3DCG化
- その3DCGをリアルタイムに描画し、VRゴーグルで3D映像として体験
- コントローラを通して3DCGを“手に持てる”

3D映像であるからこそ疑似的に“手に持つ”ことが可能となり、自分の意のままに自由自在に鑑賞することができます。展示ケース越しでは見ることができない裏側や内部も観察することができます。また、目の前数cmの至近距離にて観察することもできますので、ガラス越しに本物を見ても気づきにくい小さな模様等もこのVRミュージアムでは容易に気づくことができます。

この“3Dっぷり”は体験者が「本当に触れる」と思ってしまうレベルのものであり、掲載写真でも、体験者が右手（コントローラ）で持っている縄文土器を「触ろう」とつい左手が出てしまっています。

また、任意の断面の表示、解説ボイスに合わせて部位が光る等、デジタルでしか実現できない機能もあります。

文化財を単にデジタルで鑑賞できるだけではなく、VR技術の活用により本物でも体験できないコトをも可能にした画期的なデジタルミュージアムとなっています。



技術賞

株式会社モルフォ AIソリューションズ / FROG AI-OCR

デジタルアーカイブ産業賞を受賞するという栄誉を賜り、モルフォ AIソリューションズを代表して心より御礼申し上げます。

FROG AI-OCRは、旧字旧仮名遣い、多段組み、総ルビといった日本の近代活字資料特有のレイアウトや文字種に対応可能なAI-OCRです。国立国会図書館がCC BYで公開したNDOCRを活用し、ブラウザ上で校正やテキスト出力機能を可能としています。

これまで、スキャン画像としてアーカイブ化された資料が多く存在しましたが、テキストデータとして活用されていないケースが多々ありました。FROG AI-OCRは、これらの課題を解決し、大学や図書館、自治体、出版社など幅広い分野で、多くの実績を積み重ねてまいりました。海外からも引き合いをいただいております。一昨年にプロダクトを発表した際には想像もできなかったような多様な用途で活用が広がっています。まさにユーザーの皆様とともに作り上げてきた実績だと考えております。

また、史料編纂から続く伝統的な業界において、私どもの提供する新規の技術を受け入れてくださった関係者の皆様の柔軟性と

ご理解に深く感謝申し上げます。デジタルアーカイブ業界のこの寛容さが、今後、過去の叢智の再発見・再活用や、日本の知の海外への発信を可能にしていくことを確信しております。

今回の受賞を励みに、デジタルアーカイブの振興に一層努め、文化と歴史の継承を技術の力で支えてまいります。引き続き、皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



貢献賞

大網白里市 / 大網白里市デジタル博物館

千葉県大網白里市には、大網山田台遺跡群をはじめとした多くの考古資料や、江戸時代に九十九里浜のいわし漁の大漁を背景とした民俗資料や美術品など、多くの文化資源が残されていますが、博物館・資料館・美術館などの常設の展示施設がありませんでした。そこで、平成30年2月1日に、いつでも・どこでも・無料で閲覧できる大網白里市デジタル博物館をインターネット上で公開しました。令和5年の博物館法の改正を受け、条例や規則を新たに制定することで登録博物館の基準に達し、令和6年3月、ネット上を中心に活動する機関としては全国で初めて、登録博物館となりました。

このデジタル博物館公開事業を推進するにあたって心掛けていることは、デジタルならではの特性を活かすということと、関係各団体と連携し波及効果を生むということの2点です。1点目は、考古資料の3D化、古文書の翻刻重ね表示、美術品の高精細閲覧、文化財マップのGPS連携、自治体史の全文検索などがあり、どの機能もご好評いただいております。2点目は、小学校への出前授業、自治会への出前講座、大網白里市美術会のネット上展示、

市内の郷土芸能団体の記録保存、JRによる観光イベントの実施など、多くの波及効果の実現しています。

この受賞を励みに、今後も市民のニーズだけでなく、全国から活用されるデジタルミュージアム・デジタルアーカイブを目指して活動して参ります。



貢献賞

株式会社丹青社／アート・工芸作品のプラットフォーム「B-OWND (ビーオウンド)」

商業空間や文化空間、イベント空間等、人が行き交うさまざまな社会交流空間づくりの課題解決をおこなう株式会社丹青社がサービスを提供する「B-OWND (ビーオウンド)」は、日本の美を表現する最高峰のアートとしての工芸作品を取り扱うオンラインマーケット兼ギャラリーです。

「すべての人をアートの当事者に」、「テクノロジーを活用し、日本の工芸をアートとして世界に広める」をMission、Visionに掲げ、2019年5月のサービス提供開始以来、購入作品にブロックチェーンによるデジタル作品証明書を発行しています。作品を購入した事実が半永久的に記録され、個人々の美意識がアート工芸の歴史に刻まれていきます。

また日本のアートとしての工芸の普及に向けて、日本の美意識を伝える各種イベントの開催や常設ギャラリーの開設、海外ではマイアミビーチ上に設けられた巨大な会場内に130以上の国際的なアートギャラリーが展覧する、世界屈指のアートフェア「SCOPE MIAMI BEACH」に2023年、2024年と2年連続で展覧するなど、さまざまな取り組みを行っています。2025年日本国際博覧では丹

青社として初参加する期間展示にてB-OWNDを中心に、ブースを訪れた世界の人々に日本の美意識を根拠とした工芸とアート、伝統と革新、人工と自然などさまざまな領域が統合された空間を提供予定です。

海外に向けての発信を進めることにより、日本の美意識に基づいた空間づくりの国際的な価値向上への貢献を目指しています。



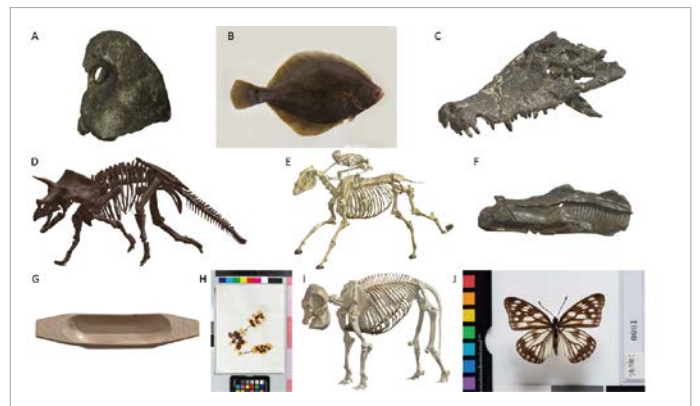
貢献賞

北海道大学総合博物館、北海道立北方民族博物館、むかわ町穂別博物館、札幌市博物館活動センター、札幌市円山動物園、群馬県立自然史博物館、北九州市立自然史・歴史博物館／非公開標本デジタルデータベース「みんなの博物館」

世界中のほとんどの博物館において、展示室で展示・公開されている標本・資料は収蔵されているモノのごく一部です。例えば、北海道大学総合博物館には約300万点の標本・資料が収蔵されていますが、常設展示室にある標本はその0.01%にも達しません。これらの貴重な標本はそれぞれの学問分野においては世界的に広く認識され、利活用されているものの、各分野の研究者以外の人の目に触れることはほとんどありません。

このたび北海道大学総合博物館、北海道立北方民族博物館、むかわ町穂別博物館、札幌市博物館活動センター、札幌市円山動物園、群馬県立自然史博物館、そして北九州市立自然史・歴史博物館が連携して、普段は収蔵庫に大切にしまわれている「非公開標本」を収めたバーチャル・ミュージアムを開設しました。その名は非公開標本デジタルデータベース「みんなの博物館」(https://minna-museum.jp/)です。「みんなの博物館」の特徴は分野横断型・館種横断型のデータベースであることです。連携各館の所蔵標本を網羅することを視野に、現生生物、古生物・化石、岩石・鉱物、考古、民族の標本・資料が登録されています。また、「MY 標本」機能を利用すれば、皆さんのお気に入りの「家宝」を集めた博物館をつくることもできます。

なお、「みんなの博物館」は令和5年度の文化庁・Innovate MUSEUM 事業に採択された「多館種連携による非公開資料のデジタル化とオンライン公開による博物館展示機能のDX推進業務」事業の助成を受けて作成されました。



「みんなの博物館」掲載標本の例
 A. オホソク文化の骨偶 (北海道大学総合博物館蔵)、B. マツカワ (同左)、C. アンフィコティリスの頭骨 (群馬県立自然史博物館蔵)、D. トリケラトプスの全身骨格 (同左)、E. ウマとそれに騎乗したヒトの全身骨格 (北九州市立自然史・歴史博物館蔵)、F. カムイサウルスの上頭骨 (むかわ町穂別博物館蔵)、G. ナーナイの木製食器 (北海道立北方民族博物館蔵)、H. 原博士が採集した *Pyrola grandiflora* (ツツジ科) 標本 (同左)、I. アジアゾウの全身骨格 (札幌市円山動物園蔵)、J. ゴマラチョウ (札幌市博物館活動センター蔵)

奨励賞

株式会社サンク・アール／デジタルアーカイブを活用した博物館での展示造形

過去の制作物に関して具体例を列挙しての紹介は守秘義務契約の関係上難しいのですが、古い文化財等の計測データを基に様々な模型を業務内容の一部として作製しております。20年程前は写真を参考にしたり直接型取りをして複製模型を作っていましたが、近年は細密なデータと精細な3Dプリンターを組み合わせる事により制作方法の可能性が広がっております。しかしながら我々の最終納品形態は直に触れる事のできるものが大半です。現在の処、如何に高精細な3Dプリンターであっても再現不可能なものも多いのが実状です。我々の技術はそれを再現できるという自負を持っております。但しデジタル技術革新によってその差は縮まっており、これからは棲み

分けにより各々の長所を選択していく事になると思っております。

受賞者ショートプレゼンテーションの動画にて、いくつかの作例から製作手順を説明させて頂きました。

我々造形業に於いても模型納品に限らずデジタルを利用する事により途中経過での成果物(副次的生成物のデータ)の利用価値を感じております。プレゼンテーションでもお伝えしまし

②裏面につづく→



たが、古墳時代人の復元の依頼は動画を作ることでした。これは考古学の先生のお考えとして、3D模型を作ってしまうと、そのイメージが固定されてしまい、後の変更が困難になるという理由からです。

研究成果は常にアップデートされるべきものと心得ており、デジタルであれば柔軟に対応する事が可能であるため、これからの博物館に於いて研究成果におけるアウトプットの主流となるでしょう。

奨励賞

公益財団法人渋沢栄一記念財団および開発メンバー／みんなで古写真【渋沢栄一伝記資料】

みんなで古写真【渋沢栄一伝記資料】について

「みんなで古写真」(<https://denkiphoto.shibusawa.or.jp/minna/>)は、令和3(2021)年度国立歴史民俗博物館総合資料学奨励研究「市民参加型プラットフォームによる写真資料のデータ構築と活用」の成果として生まれました。本プロジェクトは、『渋沢栄一伝記資料』別巻第10に含まれる700点あまりの写真を対象に、写真に関連するさまざまな情報を付加することで学術資料としての価値向上をはかることを目的としたものです。

膨大な写真資料の活用には、その写真にまつわる多様な情報の整備が不可欠ですが、その作業には膨大な時間と労力を要します。「みんなで古写真」は、ここに市民参加の要素を導入するアプローチをとりました。

「みんなで古写真」のWebサイトでは、写真に登場する人物や写真の撮影場所といったさまざまな情報をアノテーションとして写真資料に付加することができます。2021年度のプロジェクト公開後、115名の人々がユーザー登録して本プロジェクトに参加し、1,350件のアノテーション作業が実施されました。この作業を通じ

て、写真に登場する300名以上の人物と200地点以上の撮影場所が同定されています。また、東京北区の生涯学習プログラム「青洲義塾」等でもご活用いただいております。地域資料の活用や教育への貢献に繋がっています。

この場をお借りして、改めて心より関係者の皆様、また実際「みんなで古写真」を活用してくださった市民の皆様に、心から御礼申し上げます。



奨励賞

株式会社誠勝／産学連携教育を想定した史料デジタル化支援サービス

この度、「奨励賞」を頂戴し、心より感謝申し上げます。

私たち株式会社誠勝は、「文化を継承するアマーバ」を創る」というミッションのもと、デジタルアーカイブの構築とデジタルアーカイブが世の中に広く活用される方法を確立することに取り組んでいます。当社は、デジタルアーカイブの真の価値は、単なる保存ではなく、その活用を通じて未来に新たな価値を生み出すことにあると考えています。

その一環として、2024年にデジタルアーカイブを活用した教育プログラムを開発し、「奈良県インターンシップ推進事業」において学生向けに実施しました。学生たちは、国立国会図書館の「次世代デジタルライブラリー」に公開されている「岡本敏行自叙伝」(住友生命創業者)を題材に、AIを活用し、企業家の魅力を可視化。それを伝える展示企画を立案し、最終日には当社従業員や自治体関係者様の前でプレゼンテーションを行いました。なお、本インターンシップの様子は産経新聞社様に取材いただき、多くの反響をいただきました。

そして2025年には、この研修プログラムを教育だけでなく、多

方面に展開できればと思っています。このような取り組みが、デジタルアーカイブの活用の機会を広げ、文化や歴史の新たな継承の形を生み出すと考えています。

私たちは、デジタルアーカイブを通じた「人と文化への投資の循環」を広げ、これからも新たな価値創造の可能性を追求し続けます。



奨励賞

株式会社勉誠社／2010年代前後からのデジタルアーカイブ本の出版活動

当社では『デジタルアーカイブにおける『資料基盤』統合化モデルの研究』(2009年刊行)以降、これまで10冊以上のデジタルアーカイブに関する書籍を出版して参りました。

2009年に比べると、身の回りのデジタルデバイスを始めとした技術の発展、使用環境の急速な変化などもあり、「デジタルアーカイブ」という言葉は認知度が増してきましたが、依然高度に専門的な分野ととらえられがちな印象も受けます。

2010年代以降、日本では東日本大震災や能登半島地震をはじめとした自然災害によって、また世界に目を向けると、戦災によって文化財が損なわれるというニュースを目にする機会が増えたよう



③ 2010年代前後からのデジタルアーカイブ本の出版活動のつづき→

に思います。リアルな「モノ」を残していくことが切実な問題として立ち現れてきており、当社は、近年、文化財の保存や修復に関する書籍も数多く手掛けて参りました。

そのような「モノ」を後世に伝えていくという観点からもデジタルアーカイブとの相互連携は必須のものであり、デジタル化によって「モノ」の情報を蓄積・保管し、広くアクセスできる世界

を構築することも、特に2020年からのコロナ禍を経て、さらに重要な課題となっていると思います。

このような世界的な情勢も踏まえつつ、今後のデジタルアーカイブを考える、そして実際に運用していく上で、必要な知識・理論・技術などを、多くの方々に広く知っていただける書籍の出版に、より一層力を注いでいきたいと考えております。

奨励賞

株式会社 MIERUNE / れきちず

この度は栄誉ある賞をいただきありがとうございます。「れきちず」は、現代の地図デザインで歴史的な地図を閲覧できるウェブサービスです。地図のデザインや機能にこだわりながら、誰にとってもわかりやすい地図を目指しています。

このサービスは、個人の趣味から始めたプロジェクトで、公開後は多くの方々からご反響を頂きました。その中で寄せられたご要望やアイデアを反映させる中で、デザイナーである私一人の力では足りなくなり、所属する会社のプロジェクトとして発展させることができました。

ありがたいことに、学術研究機関との共同プロジェクトも実現し、そこで作成したデータをオープン化することで、微力ながら社会への貢献につながったと考えております。また、他社とのコラボレーション・プロモーション活動も行っております。

「れきちず」は今まさに発展の途上にあります。地域の歴史をわかりやすく伝えることで人々がその土地の魅力をより深く理解する手助けができればと願っています。また、博物館や公共

施設等での展示やコラボレーションも将来的にできればと考えております。

今回の受賞は私一人のものではなく、社内のメンバーや社外で携わっていただいた方々がいらっやっしてこそ実現したものです。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。今後も「れきちず」が新たな歴史体験を提供できるよう努力してまいります。



Topics

2024 デジタルアーカイブ産業賞について

1 「デジタルアーカイブ産業賞」趣旨

デジタルアーカイブ産業振興に寄与した活動を称揚することによって、デジタルアーカイブ産業及びデジタルアーカイブ推進コンソーシアムへの社会的関心を高めるとともに、産業の発展に資する。各年度で選考し、発表・授賞式を行う。

2 選考委員・作業部会員

〈選考委員〉(50音順)

青柳 正規 デジタルアーカイブ推進コンソーシアム会長：選考委員長

白鳥 綱重 内閣府知的財産戦略推進事務局参事官

高野 明彦 国立情報学研究所名誉教授・特任教授

寺田 航平 寺田倉庫社長／経済同友会副代表幹事

吉見 俊哉 デジタルアーカイブ学会会長

〈作業部会員〉(50音順)

植山 秀治 TOPPAN 株式会社

岡本 真 アカデミック・リソース・ガイド株式会社

川島 健一 株式会社NTTデータ

神崎 正英 ゼノン・リミテッド・パートナーズ代表

小林 慎太郎 株式会社野村総合研究所

宮本 聖二 立教大学特任教授

室田 秀樹 大日本印刷株式会社

3 各部門賞概要

ビジネス賞：過去5年以内を対象としてデジタルアーカイブ産業の新しい分野・ビジネスモデルを開拓し、普及・活用等に優れた貢献をした個人・企業・機関・団体を対象とする。

技術賞：前年度に発表または実施したデジタルアーカイブ産業に資する革新的な技術・手法・サービス・機材・システムを対象とする。

貢献賞：期間を問わず、デジタルアーカイブ産業の発展に大きく寄与した個人または団体を対象とする。

奨励賞：今後更なる発展が期待されるデジタルアーカイブ産業の個人・企業・機関・団体を対象とする。